

「新たな習慣から学んだこと」

私は最近になって、ニュースの記帳を始めました。きっかけは中東情勢悪化のニュースを見たことでした。高校時代に中東地域の歴史的背景について学んできましたが、実際のところ最近の情勢までは把握できていませんでした。立ち上る黒煙、崩壊した建物、山積みになった瓦礫。飢餓でやせ細った赤ん坊、離ればなれになった家族、自分の身体と同じくらい大きな銃を抱える子どもたち。実際に起こっているとは信じられない惨状に胸が締め付けられました。同じ時代に起こっているにもかかわらず詳しく知ろうとしてこなかったことに違和感を覚え、ニュースの記帳を始めました。

ニュースの記帳を始めて以来、初めに受けた印象だけに囚われないよう心掛けています。私はニュースを見ていて表面だけですべてを知っているつもりになってしまうことがありました。一面的な見方で会ったこともない誰かのことを分かった気になることもありました。しかし、ニュースを見ていると同じ事実を扱っていても受ける印象は大きく異なることに気付かされます。報じられ方や切り取られ方によって、時に事実さえ見えにくくなってしまいます。何を信じるか、信じるに値する根拠とは何か。そのことが問われる時代であるように思います。

また、ニュースに触れる手段も気にするようになりました。ニュースに触れるにはいくつもの方法がありますが、それぞれに長所、短所があると思います。オールドメディアは信頼に足るとされる反面、一方的で報道が偏向していると指摘されることがあります。一方でニューメディアは双方向のコミュニケーションが可能であるものの不確かな情報を孕んでいると指摘されることがあります。日々膨大な量の情報に触れる現代において、情報を得る手段として何を選択するかの重要性を実感しました。

日々様々なニュースがあり、その中には目を背けたくなるようなものも含まれています。無力感を抱き、心を痛めることもしばしばあります。だからといって何も知らないままで良いかと言われればそうではない気がします。ニュースを見て蓄えた知識が防災訓練のように万が一の時に役に立つかもしれない。誰か身近な人を助ける力になるかもしれない。知識は力とよく言います。それならば情報収集は備えなのではないでしょうか。自分自身を守り、大切な誰かを助けるための備えだと私は思います。

皆さまもニュースに限らず新たな習慣を始めてみてはいかがでしょうか。新たな学びを得るきっかけになるかもしれません。